

■大学院 経済学研究科 経済学専攻

教育研究上の目的
<p>大学院学則第2条 (目的)</p> <p>本大学に設置する大学院(以下「本大学院」という。)は、課程の目的に応じ、学理及びその応用を教授・研究し、学術の深奥を究めて、人類社会の発展に貢献しうる人材を養成するとともに文化の進展に寄与することを目的とする。</p>
<p>大学院学則第6条の2 (研究科及び専攻)</p> <p>修士課程においては、現代の経済社会について、広い視野からの学識に立ち、経済学に関する高度な知識と技能をもって分析・研究しうる能力をそなえた高度専門知識人の養成、及び経済に関する専門性を要する職業等に必要能力をもった高度専門職業人の育成を目的とする。博士後期課程においては、経済学分野の研究者として、自立して研究活動を行うに必要な高度な研究能力とその基礎となる学識の育成、並びに高度専門職業人として、より先端的な技能と研究能力の向上、及びその基礎となる豊かな学識の修得を目的とする。</p>
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)
<p>【修士課程】</p> <p>経済学研究科修士課程では、愛知大学学位規程に基づき下記の資質を修得し、修士課程に2年以上在学し、32単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ修士論文の審査及び最終試験に合格した学生に対して学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 現代の経済社会について広い視野の学識を修得していること。 (2) 経済学に関する高度な知識と技能を修得していること。 (3) 知識人・職業人として、地域・国際社会に貢献できること。 <p>なお、修士の学位論文については、2名以上からなる審査委員会により、厳格な論文審査および口述試験を行います。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>経済学研究科博士後期課程では、愛知大学学位規程に基づき下記の資質を修得し、博士後期課程に5年(修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む)以上在学し、40単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に対して学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 経済学分野の研究者として、自立して研究活動を行うに必要な高度な研究能力と基礎となる学識を修得していること。 (2) 高度専門職業人として、より先端的な技能と研究能力を修得していること。 (3) 研究者・高度専門職業人として、地域・国際社会に貢献できること。 <p>ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本大学院博士後期課程に3年(修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む)以上在学すれば足りるようになっていきます。</p> <p>なお、課程博士の学位においては、提出論文に対して、3名以上からなる審査委員会により、専攻科目および関連科目並びに外国語に関する試問を経て、厳格な論文審査と最終試験が行われます。</p>
教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)
<p>【修士課程】</p> <p>経済学研究科修士課程では、(1)現代の経済社会について、広い視野からの学識に立ち、経済学に関する高度な知識と技能をもって解析・研究しうる能力をそなえた高度専門知識人の育成、及び(2)経済に関する専門性を要する職業等に必要能力をもった高度専門職業人の育成を目指しています。</p> <p>このような教育研究上の目的を達成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを作成しています。</p> <p>経済分析コース、政策・地域コース、世界経済コースの3コースを設け、学生が専攻するコースを中心に体系的・系統的な研究が可能となっています。各コースには教育研究上の目的に合致した授業科目を配置し、学生の教育効果が最大限に発揮できるよう配慮しています。</p> <p>授業科目は、学生の履修上の便宜を図るため、2単位科目と4単位科目をバランスよく配置しています。また、諸外国の大学院との学生交換、教員交換、留学生等への配慮から、 Semester制を導入しています。本研究科は、学部を基礎を置く大学院研究科であり、その構成員も学部とほぼ重なっていることから、大学院の教育内容は、学部の教育内容を基礎におき、その展開過程として設計されており、両者の教育内容の関連性、適切性は常に念頭において設定されています。修士課程における教育内容と博士後期課程における教育内容についても、両者の関連性と適切性に配慮して制度設計がなされています。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>経済学研究科博士後期課程では、経済学分野の研究者として、自立して研究活動を行うに必要な高度な研究能力とその基礎となる学識の育成、並びに高度専門職業人として、より先端的な技能と研究能力の向上、及びその基礎となる豊かな学識の修得を目的としています。</p> <p>このような教育研究上の目的を達成するため、院生のさまざまな研究分野に対応できる研究指導体制を編成しています。また、優れた研究業績をあげた院生については、修業年限の短縮や専修科目の必要単位を削減するなどの措置もあります。</p>

愛知大学 3つのポリシー（2021～2023年度）

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

【修士課程】

経済学研究科修士課程では、現代の経済社会について、広い視野からの学識に立ち、経済学に関する高度な知識と技能をもって解析・研究しうる能力をそなえた高度専門知識人の育成、及び経済に関する専門性を要する職業等に必要能力をもった高度専門職業人の育成を目指しています。

このような教育研究上の目的を達成するため、経済学研究科では以下のような学生を受け入れます。

- (1) 経済に強い関心を持ち、本研究科で研究するために必要な経済学に関する知識を有する人。
- (2) 自立して研究を行い経済学の学問的発展に寄与しようとする意欲のある人。
- (3) 経済学に関する専門知識を身につけ高度専門職業人として社会に貢献しようとする人。
- (4) 一般・外国人留学生入試では、専攻しようとする専門科目についての学力に加え、日本人の学生にあっては外国語の能力、外国人については日本語による会話・コミュニケーション能力を有する人。
- (5) 社会人特別入試では、特定の専門分野に関心を持ち、適切かつ明確な研究テーマを持っている人。

【博士後期課程】

経済学研究科博士後期課程では、経済学分野の研究者として、自立して研究活動を行うに必要な高度な研究能力とその基礎となる学識の育成、並びに高度専門職業人として、より先端的な技能と研究能力の向上、及びその基礎となる豊かな学識の修得を目的としています。

このような教育研究上の目的を達成するため、経済学研究科では以下のような学生を受け入れます。

- (1) 今後の研究に関して明確な計画を持ち、その計画を実現するために必要な専門分野に関する十分な学識と外国語についての知識と活用能力を持っている人。
- (2) 経済学の分野において、研究者として自立して研究活動を行う能力と意欲のある人。
- (3) 経済学の分野において、高度に専門的な職業に従事して研究活動を行う能力と意欲のある人。